

## 導入から3年、次の一歩へ 変化の中で進むノーリフティングケア



医療法人 博愛会  
介護老人保健施設 博愛苑

## はじめに

博愛苑も県事業への参加から早3年...  
しかし、退職や異動などあり、  
主要メンバーが抜け、思うように  
事業承継が進んでいない状況



そのなかでも  
「軌道に乗っていること」、  
「苦戦していること」を紹介

## 一番軌道に乗っているもの

### 環境・福祉用具



## 福祉用具個数（昨年との比較）

スライディングシート・・・3枚（大・小あり）  
グローブ・・・複数枚（ディスポ）  
フレックスボード・・・3枚

スタンディングリフト・・・1台→**2台**（HugT1）  
床走行式リフト・・・1台→**2台**（つるべー体重計付き）  
スライディングボード・・・5個→**7個**（つばさ）



## 福祉用具を使用して変わったこと

### 1. 業務効率

- ・2人介助 → 1人介助で可能
- ・業務行程削減 (座り直し、体重測定)

\*リフトにスリングの重さを貼り、  
体重測定時の効率改善



### 2. 介助者の負担

- ・身体的負担軽減  
→引っぱる、持ち上げる介助無し
- ・精神的負担軽減  
→業務効率の向上により、時間に余裕あり



## つばさ (スライディングボード) の導入

- ・使用していたボードが使い辛いとの声あり  
→ボード変更を検討し、“つばさ”を購入
- ・看護、介護職員より、扱いやすいという意見  
→移乗時にボードを使用する職員が増加



\*現在は職員への移乗指導もツバサを使用



## 福祉用具を使う中での課題と原因

- ・ボードやシートを使用しない職員が居る状況 (リフトは使用する)



- ・リフト等は使用することのメリットを実感
- ・ボードやシートは  
→メリットが分かりにくい  
→体の使い方が修得できず使うのが難しい



このことが業務に生かせていない原因

## より福祉用具を活用していくために

- ・ボードやシートを定着させるために  
→使用効果の分かりやすい対象者の選定 (大柄な方など)



効果を理解してもらい、使用を促す



## 一番苦戦している、低迷しているもの

### 人材育成

- ・ 人員不足等から**就業時間内での指導困難**
- ・ 指導内容が職員間で共有されていない  
(やる気の問題もあり...)
- ・ 少数の職員にしか細かな指導が出来ず

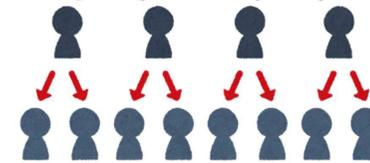


## 具体的な方法として

- ・ 人員不足などの問題もあるが...  
→ 指導の時間を就業時間内に調整し、**業務としての意識付け**を行う
- ・ 意欲的な職員へ  
→ 指導を重点的に行い、他職員への指導を依頼



**リンクスタッフを増やすことが目標**



## 人材育成をすすめていくために

・ 過去～現在  
**リハビリ職員がノーリフティングケアを指導**



・ 今後  
**介護職員が中心となり新人スタッフや技術に不安がある職員への指導**



## おわりに

今だに思うように進まず、  
3歩進んで2歩下がる状態



モチベーションを保つことが難しい時期も



**地域連絡協議会に参加**することで**刺激**となり、  
**モチベーション向上**!

今後も  
職員への技術指導や動機づけなど  
当苑でのやり方で実施

